

飯田市議会 会派みらい

「リニアの時代と飯田下伊那」

【ステージ1】 大鹿村視察研修

2011. 1. 11～12

会派みらいは、平成21年度より、リニア中央新幹線飯田駅設置を目指して政務調査、視察研修を進めています。

これまでに、新幹線の既存駅、建設中の駅、山梨実験線工事区間などの現地視察をはじめ、各種セミナー・会議への参加などを通して活動をしております。

このたび、国土交通省交通政策審議会中央新幹線小委員会において、南アルプスルート（Cルート）が優位とする「中間とりまとめ」が発表され、いよいよリニア飯田駅の実現に向かって大きく前進を見ることとなりました。

また、南信州広域連合、及び広域連合議会では、過日開催された広域連合議会において、リニア飯田駅的位置については「現駅併設」の方針で集約されました。さらには、その後に示された飯田駅設置を見据えての「リニア将来ビジョン案」を了承しました。この「将来ビジョン」は、地域ブランドの確立や、地域の文化や伝統を守りながら、住民主体のまちづくりを進める重要性を指摘しています。

こうした一連のリニアに関する動きの中で会派みらいでは、「リニア飯田駅設置」と「リニア将来ビジョン」の実現のために、飯田下伊那が一つになって取り組むことの重要性をあらためて認識するなかで、地域の声をお聞きするとともに、リニアの時代を見据えた地域の皆さんとの意見交換の場が、非常に大切であると考えております。

こうした活動の、まず第1弾として、このたび、南アルプスルートが優位とされるなかで、事業の大きな注目地となる大鹿村を訪問し、現地の視察とリニアに関心を持たれている皆さんとの懇談会を実施いたしました。

この計画につきましては、大鹿村村議会の熊谷議員さんにお骨折りをいただいてまいりました。あらためてこの場で、熊谷議員さんをはじめ、今回の視察にあたってご尽力いただきました大鹿村の関係の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

1. 日程

1月11日（火）

- 13:00 大鹿村中央構造線博物館 到着
- 13:05 現地マイクロバスにて大鹿村内視察（ルート関連地など）
視察後、大鹿村中央構造線博物館 見学
- 14:15 大鹿村中央構造線博物館にて大鹿村民との「懇談会」 ～15:40
「リニア中央新幹線をどう考える」
- 15:50 大鹿村中央構造線博物館 出発
- 15:55 大鹿村役場 到着
- 16:00 大鹿村長、大鹿村議会議長、議会議員有志との懇談会 ～17:30
「リニアの時代と飯田下伊那の展望」
- 18:00 鹿塩温泉「塩湯荘」 : 宿泊

1月12日（水）

- 8:30 「塩湯荘」 出発
- 9:50 飯田市役所 到着

2. 研修内容

1) 大鹿村内視察

<目的>

リニアをめぐる、大鹿村がルート上で注目されていることから、大鹿村の地勢を直接見ることとしました。

<参加者>

大鹿の100年先を育む会会員、及び大鹿村民有志など、約25名にて村内を視察。（案内：大鹿村中央構造線博物館学芸員 河本さん）

<内容>

- ・大鹿村の地層・地形の特徴、中央構造線、伊那山地及び赤石山脈の隆起による成り立ち、崩壊が常に起きる非常に脆弱な山などについて、眺望のきくポイントにて説明を受ける。
- ・JR東海がボーリング調査を行った「釜沢」（かまっさわ）地籍の現場を見る。すでに調査を終え、現状復帰されている。

2) 大鹿村民有志との懇談会

<目的>

リニアをめぐって、大鹿村がルート上で注目されている現状から、村民として研究を行っている立場からのリニアに対する考えをお聞きし、リニアを推進していく立場からの会派みらいとの意見交換の場としました。

<参加者>

「大鹿の100年先を育む会」会員、大鹿村民有志、報道関係者など約40名。

(パネリスト)「大鹿の100年先を育む会」より6名

- ・青木さん(大鹿生まれの酪農家)
- ・中野さん(Iターン。農業の傍ら介助などのアルバイト)
- ・土屋さん(NPO 法人代表、34年前にIターン)
- ・平瀬さん(旅館経営者)
- ・河本さん(学芸員、東京出身、25年間在住)
- ・サイモンさん(イギリス生まれ。翻訳業。22年間大鹿在住)

(会派みらい) 5名

*懇談記録は別紙参照。

3) 大鹿村長、大鹿村議会との懇談会

<目的>

一連のリニアに関する動きの中で、「リニア飯田駅設置」と「リニア将来ビジョン」の実現のために、飯田下伊那が一つになって取り組むことの重要性をあらためて認識するなかで、リニアの時代を見据えた飯田下伊那の地域の皆さんとの意見交換の場が、非常に大切であると考え、行政、議会の皆さんとの懇談をしました。

<参加者>

柳島村長さん、松下村議会議長さんほか5名の村議会議員さん

<内容>

村長さん(行政)も議会も、新聞報道以外に情報がわからないことが悩みのようでした。この「情報の共有」が、現段階においては、地域住民の関わりやコンセンサスの醸成に欠かせないものであることを痛感しました。

3. まとめ

リニアの具体的なルートは未だ不透明な中で、住民、行政、議会のいずれの立場の皆さんも、確たる情報のない中でリニアに対する思いや期待、疑問を抱いておられます。

ことさら懇談した「100年先を育む会」の皆さんからは、リニア新幹線そのものや、工事から考える生活の不安が多く出されました。これに対して現在、会派みらいでは、開通後の地域ビジョンを描く中で、当地域の将来像を研究していく姿勢で活動していることから、懇談を通じて、リニアの「開通前」「開通後」というお互いのタイムラグを感じることができました。

リニアの開通後の飯田下伊那の将来ビジョンを地域全体で共有しながらも、リニアに翻弄されない地域づくりを今から推進するとともに、今後、リニアのルートに直接関係してくるであろう地域の住民の「生活の不安」という課題にも対処していかなくてはならない、そういった“夢と現実”について、今後も飯田下伊那の皆さんと議論していくことの必要性をあらためて感じた大鹿村での滞在でした。

【報告：会派みらい 幹事長 井坪】